



かながわ明日すリート15

自転車競技

はたけやま さえ
富山紗英選手
(21)
*
寒川町在住



起伏の激しいダートコースで順位を争う自転車競技のBMXレース。寒川生まれの富山紗英選手は21歳ながら、幼少期から国際舞台で走り続けている第一人者だ。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により延期された東京五輪で、このほど代表に選出された。日本女子では初出場となる祭典に向けて「1年延びたので準備がしっかりできる」と頼もしい。

レースのコースは300ㄱ400メートルほど。高さ8メートルのスタート地点から時速60キロまで加速し、大小のこぶを跳び越え、傾斜のあるコーナーを回っていく。40秒足らずの勝負では接触、転倒は日常茶飯事だ。一瞬たりとも目が離せない。

そんなスリリングな競技と出合ったのは物心つく前。2歳半で補助輪なしに乗りこなし、兄らの背中を追ってBMXの世界へ。スピードを生かしたジャンプを持ち味に、10代前半に年代別の世界選手権を3度制した。

「レースは迫力満点。初めて見た人でも一番にゴールした人が勝ちなので分かりやすい」。BMXを愛し「これまで一度もやめたいと思ったことがない」と笑う。

2年前に、国際自転車連合(UCI)が本部を置くスイス・エーグルの「ワールドサイクリングセンター」に拠点を移して活動する。昨年9月のワールドカップ第8戦で日本女子初の決勝進出を達成するなど、成果につなげてきた。

1年の3分の2を海外で過ごすのが故郷の味。JAグループ神奈川から贈られた県産の湘南ゴールドが使われたゼリーとフィナンシェを手に笑みを浮かべつつも、すぐに次なる戦いへ目を向ける。「表彰台に立ちたい。狙うは世界のトップ3です」

今号は電話によるインタビューで記事をまとめました

JAグループ神奈川は、神奈川のアスリートを応援しています。



JAグループ神奈川

<http://www.jakanagawa.gr.jp/>

バックナンバーはこちらから